ローカル・レポート

信州大学農学部・伊那中央病院との連携

長野県上伊那農業高等学校教諭　遠山　善治

長野県

長野県上伊那農業高校は長野県のほぼ中央部伊那谷に位置し、南アルプスと中央アルプスに囲まれた田園地帯にある。今年で創立110周年を迎え、長野県内の農業高校としては最も古い歴史と伝統がある。創立以来変わらぬものは、地域の学校として、常に地域を見つめ、地域とともに歩んできたことである。現在、生産環境科・園芸科学科・生物工学科・緑地工学科の４学科を設置し特色ある教育をおこなっている。

１．信州大学農学部との連携協定

信州大学農学部と本校との連携への願いは、以前から本校同窓生の間に根強くあった。それは両校がわずか２ｋｍ足らずの近距離に位置しているということだけでなく、歴史的な絆の強さに基づくものである。

昭和20年に信州大学農学部の前身である長野県立農林専門学校は開校した。これは県民の多くが待ち望んだ高等教育機関ではあったが、同時に、同窓会では本校の農業教育を完成する教育機関として、学校創立50周年の記念事業として併設運動を推進した。当時、県立農専の農場予定地50haの松林を本校生によって開墾した。機械のない当時にあって、人力での開墾の苦労はたいへんなものであった。授業を犠牲にして連日この労働奉仕に参加した生徒の多くが、「県立農専（信州大学農学部）は自分達が作ったのだ」という自負を持ち、今日も当時を知る卒業生によって語り継がれている。

両校の交流は、教育実習生の受け入れや出前授業など今までにも行われてきている。しかし多くの交流が個人的な繋がりに基づいておこなわれ、人が変わると同時に消えていくことが多かった。人が変わり時が経っても交流を継続的に活発におこないたい、という高校側の働きかけにより平成14年５月に連携に向けての話し合いがスタートした。本校から交流推進について提案をおこない、その後、随時協議会をもち、さまざまな面から検討をおこなった。協定の内容については高校の要望をもとに大学側で協定の原案を作成し高校側に提示され、翌年の12月に大学側から協定書の原案が示され、高校側で了承し調印の運びとなった。

平成15年２月21日、信大農学部長室で協定の調印式がおこなわれた。大学と高校の包括的な連携協定は全国的にもまれであることもあって、多くのマスコミ関係者が取材に集まった。調印後の挨拶の中で農学部長は、「高校、大学間で人材育成を目的に全面的な協定を結ぶのは初めてだと思う。生徒の学ぶ意欲を高める刺激になればよい。大学としても農業を学んだ優れた生徒を確保していきたい」と語った。

協定内容は次のとおりである。

信州大学農学部と上伊那農業高校との連携に関する協定書

信州大学農学部（以下「大学」という）と長野県上伊那農業高等学校（以下「高校」という）とは、地域農林業の持続的発展に資するとともに農林業に関する優秀な人材を連携して育成するため、ここに連携に関する協定書を締結する。

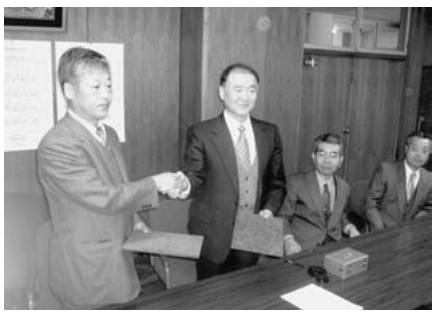
１　大学及び高校は、双方の連携を推進するため、次の諸活動を行う

（１）学術資料、刊行物及び情報の交換

（２）教員の相互派遣

（３）大学の授業及び公開講座の高校の生徒への開放

（４）高校の教員の大学での研修



信州大学農学部との調印式（左は本学校長）

（５）高校の生徒に対する大学の学生による指導及び助言
（６）大学の教育実習生の高校による全面受入れ
（７）高校の優秀な生徒の大学への優先的推薦
（８）その他大学及び高校が協議し、同意した事項
２　前項に掲げる諸活動の具体的実施に関しては、その都度、大学及び高校が緊密に協議して実施にあたるものとする。
３　この協定書は、協定の日から３年間有効とし、その後、どちらか一方から書面により中止又は変更の意思表示がなければ、３年ごとに自動的に更新される。ただし、一方が協定書の中止を希望する場合には、６ヶ月前までに相手校にその旨を通告しなければならない。

この協定は、地域との連携の重要な柱の一つとして、また生徒や職員の学習の舞台として大きな可能性を持つものである。現在は生徒が大学の講義や公開講座に参加したりして交流を深めている。

２．伊那中央病院との連携

上伊那広域行政組合による伊那中央病院は、本校の東側に隣接する地に平成15年４月１日開院した。地域との連携を進め特色ある学校づくりを目指す本校にとって、伊那市を中心とする五市町村の期待を背に新設されるこの総合病院は、さまざまな面で魅力を持つ隣人であった。この病院が素晴らしい病院になるために我々が少しでも役立ちたいという思いと、この病院がボランティア活動をはじめ本校の生徒を伸ばす教育の場として大きな可能性を持つように思われた。教育と医療というそれぞれ違った分野ではあるが、「いのち」を守り育てるという共通する面もあった。

両者の話し合いは平成13年５月より本校からの連携の申し入れにより始まり、その後、幾度となく意見交換や連携の具体的なすすめ方について話し合いがおこなわれた。その結果、平成15年２月に、完成間近の伊那中央病院で協定の調印式が行われた。協定内容は次のとおりである。

伊那中央病院と上伊那農業高等学校との連携に関する協定書

伊那中央病院と上伊那農業高等学校は、病院が高校の隣接地に開院するのを機に、双方の目的に寄与するために、連携し協力していくための協定を締結する
Ⅰ伊那中央病院と上伊那農業高等学校は、次の事項について連携し協力する
１　伊那中央病院
（１）生徒にボランティア活動の場を提供する
（２）高校で収穫した花、野菜、果物などの販売場所を提供する
（３）医療、健康などの分野で、求めに応じて可能な限り講師を派遣する
（４）将来医療従事者の仕事につきたい生徒について、病院の見学や短期の研修について受け入れる
（５）その他両者で合意された事項
２　上伊那農業高等学校
（１）病院の求めに応じて生徒のボランティア活動を出来る範囲で行う
（２）病院内の花壇、デイルームなどへの鉢植えあるいは花の苗を提供する
（３）庭園の樹木の管理に協力する
（４）院内学級や保育所と交流する
（５）その他両者で合意された事項
Ⅱ前項の諸活動の具体的な進め方については、その都度両者が協議して実施にあたる
Ⅲこの協定は、どちらか一方の書面による中止の意思表示があった場合、その時点から三ヶ月後に終了する

本校の生徒が随時、花の提供や庭木の管理等をおこなっており、現在は正面玄関に至る道路の両側に配置されたたくさんのプランターには、生徒の育てたさまざまな美しい花が並んでいる。

以上、信州大学農学部や伊那中央病院との連携を中心に述べてきたが、他に地域住民を対象とした学校公開講座や農業体験研修、みどり塾などさまざまな取り組みをおこなっている。このような活動をとおして本校の存在意義を見いだしながら、地域とともに歩む学校として大きく発展していきたい。



伊那中央病院でプランターの設置